はしがき 8

第Ⅰ章　女性文学の位相――二十世紀後半を軸に 13

1　戦争と異文化のはざまで 14
（1）進駐軍との出会い／（2）抑圧をバネに

2　女の性表現 20
（1）女のエロティシズム／（2）多様なセクシュアリティ

3　多様なエクリチュールの展開 27
（1）〈存在〉を問う視点／（2）「産む性」としての女の見直し／（3）多様な家族

4　女性表現の広がり 37
（1）フェミニズム批評と女性文学／（2）新世代の作家たち

第Ⅱ章　身体性をめぐる表象 47

1　岡本かの子――〝純粋母性〟と〝役割母性〟――48
（1）「鬼子母の愛」における母性／（2）「母子抒情」における母性

2　一九四〇年代女性作家の身体表象 59
（1）平林たい子「施療室にて」「かういふ女」／（2）佐多稲子「くれない」

3　身体性をめぐる新たなうねり 69
（1）岩橋邦枝『逆光線』を軸に／（2）倉橋由美子『パルタイ』を軸に

4　変容する女性文学　84
（1）出版ジャーナリズムと女性作家／（2）女性自らの身体へのまなざし

第Ⅲ章　女の意識／女の身体　97

1　女の意識と身体性　98
（1）「産む性」への憎悪と拒否／（2）〝いきもの〟の論理へ

2　身体の変容　108
（1）三枝和子『半満月など空にかかって』を軸に／（2）倉橋由美子『アマノン国往還記』を軸に

第Ⅳ章　新たな言説空間の構築に向けて　127

1　三枝和子の文学を中心に　128
（1）起源としての無／（2）新たな言説空間の模索／（3）男性原理と女性原理の相克
（4）〈敗戦〉を生きる／（5）歴史をとらえ返す／（6）女にふさわしい哲学を

2　大庭みな子の文学を中心に　224
（1）反逆する精神／（2）〈原爆〉から生まれた人間像／（3）生きものとしての〈文学〉

あとがき　248

初出一覧　252

本書収載の女性作家一覧　258